

創業動機

業種	障害福祉事業	創業予定時期	2018年2月創業
代表者名	田中 珠実		
創業の目的・動機	<p>創業するきっかけは、我が子の発達障害に気づいたことです。主人が市内の一般社団法人(放課後等デイサービス)で理事兼指導員として勤務していた当時、私もボランティアとして療育指導を経験させていただきました。</p> <p>知人の紹介で、奈良県にあるIT療育特化型の放課後等デイサービスを見学させていただく機会があり、子どもたちが楽しそうにパソコンやタブレットに触れている姿を見たとき、とても感動しました。</p> <p>ゆっくりと自分のペースで取り組む子もいるし、ものすごい速さでタイピングトレーニングに集中する子もいたり、様々ですが、共通しているのは「主体的に取り組む」という姿でした。自ら考えて取り組み、悩み、解決し、達成する、自信になる。子どもたちの「強みや可能性」を伸ばしてあげれるのでは？と感じました。</p> <p>これからの社会はICTがものすごいスピードで成長し続け、生活と切り離せない世の中になっていくでしょう。発達障害のある子どもたちにとっては、著しい環境の変化に対応しづらく、生きづらさを感じてしまうかもしれません。</p> <p>子どもたちに少しでも多くパソコンやタブレットに触れてもらい、楽しみながら活動することによって、義務教育化された小中学校でのプログラミング教育への不安感を少しでも解消できたり、将来の仕事に繋がる可能性も秘めていると思います。</p> <p>システムエンジニア、イラストレーター、動画映像編集、等々、ICTに係る職業は多岐にわたります。</p> <p>また、コミュニケーションの難しい子どもとのツールとして、タブレットやパソコンも活用できます。</p> <p>これまで培ってきた経験を活かし2018年2月に法人設立、同年9月に創業しました。保護者と児童のニーズにマッチし、市内はもちろん県内外から通う子どももいます。反響は大きく、開所後半年で定員100%に達しました。</p> <p>現在、青葉台教室に通所されている利用者様の中で南部(多治米、川口、新涯方面)のご利用者様の送迎が困難であり、南部方面での新規開校を望む声が多く、今回ご縁があって良い物件が見つかったので、ミライクふくやま川口教室の開所を決意しました。</p>		